

支援を継続してまいります。

市民の皆様の安全と安心を守るためには、交通に関する取り組みも重要です。これまでも、カーブミラーの設置や交通安全教室の開催などを進めてきており、交通事故件数は減少傾向にあります。住宅の密集する地域では、車両の通行が歩行者等に危険や不安を与えている状況が散見されます。このため、生活道路において歩行者や自転車の安全な通行を確保することを目的として、警察が区域を指定し、車の速度規制等を行う「ゾーン30」を市内に広げているところであり、新年度も、指定を受けた区域においてカーブミラーなどの整備に取り組んでまいります。

6 環境にも人にも優しい快適な都市空間が整うまち

六番目の基本目標は、「環境にも人にも優しい快適な都市空間が整うまち」でございます。

今、世界で最も重大な環境問題が地球温暖化とされていることは申し上げるまでもありません。まさに地球規模、国家規模で温室効果ガスの排出抑制が求められる大きな問題ですが、基礎自治体としても着実に取り組みを積み重ねていく必要があることから、新年度は公共施設への再生可能エネルギーの導入として、コミュニティセンター・南林間会館に太陽光パネルを整備いたします。また、市民の皆様の取り組みを促進するため、住宅用

太陽光発電システム等の設置費用の支援を継続しつつ、家庭用燃料電池の助成について、件数の拡大を図ってまいります。

環境に優しいまちとして、循環型社会への歩みを進めていくことも求められます。本市ではこれまでも、食料品の包装やレジ袋などの「その他プラスチック製容器包装」の資源化に取り組んできており、新年度の7月には、環境管理センターにおいて、プラスチック製容器包装を梱包するペール化などを行う中間処理施設を稼働させ、資源化率を100%に引き上げてまいります。環境管理センターにつきましても、本格的に稼働を開始してから四半世紀の時が流れました。新年度は、平成50年度までの使用を視野に入れた焼却処理施設の長寿命化に着手し、市民生活の維持と循環型社会の形成に欠くことのできない大切な施設を長く活用できるよう、取り組んでまいります。

農業は私たちに新鮮な農作物を提供するばかりでなく、農地が災害時のオープンスペースや緑地としての機能を果たし、良好な都市環境の形成にも寄与するなど、様々な効用をもたらします。このため、都市化が進んだ本市にあつて、農地が最大限保全されるよう、本定例会には、生産緑地の区域の規模を緩和する条例案を提出させていただいているところであり、これと合わせて、新年度からスタートする「大和都市農業振興基本計画」に基づく施策を着実に展開することで、都市農業の持続的な振興を図ってま



まいります。

人に優しい快適な都市空間を整えることは、市民生活の向上に寄与することも、まちの魅力を高める側面があり、我が国で少子高齢化や人口減少が進む中、都市の持続可能性を追求する観点からも重要な取り組みと言えます。

私は市長就任以来、多くの人に大和市に住んでみたい、住んでいて良かったと感じていただけるよう、市域全体を見渡しながら街づくりを臨み、「北のまち」、「中央のまち」、「南のまち」には、市民の暮らしを彩る拠点施設としてポラリス、シリウス、I.K.O.Z.Aを配置するとともに、周辺の都市基盤整備も着実に進めてまいりました。「中央林間地区街づくりビジョン」に基づく取り組みも、核となる中央林間図書館などの公共施設が完成し、今後は総仕上げに向けた駅周辺の空間づくりを軸足を移してまいります。新年度は、小田急電鉄によるホームドア

ましては、新年度に15の公園に防球ネット等を設置してスペースを確保し、累計51カ所とするなど、取り組みを展開してまいります。更に、休日ともなれば家族連れを中心に、たくさんの方が訪れる南のまちのランドマーク、大和ゆとりの森では、子どもの声がこだまするわんぱく広場の遊具を改修するほか、ご利用される方のくつろぎの場として、また、安全確保の場所として、避雷針を備えた四阿を新設するなど、機能面の維持と強化に努めてまいります。



拠点となる施設や鉄道の駅、憩いの場、市民の皆様の住まい。これらをつなぐ、誰もが移動しやすい都市となるよう、県内トップの運行ネットワークとなるまでに充実を図ってきたコミュニティバスについて、新年度から、その利便性を一層高めるためのルートの見直しに着手いたします。また、「のろっこ」に関しては、スイカやパスモなどのIC乗車券でご利用いただけるよう対応してまいります。

本市では平坦な地形を生かし、自転車利用環境の向上に努めており、新年度は

7 豊かな心と感動が広がるまち

七番目の基本目標は、「豊かな心と感動が広がるまち」でございます。

読書や学び、文化芸術は、私たちに新

自転車の適正通行を促すマナーアップ対策工事を市内各所で実施いたします。また、平成29年度には、鶴間駅西側において歩道を拡幅し、車の往来と完全に分離した新たな自転車通行帯を整備いたしました。これまでも見違えるような、安全で快適な通行空間が創出され、好評の声を数多くいただいていることから、新年度は、更なる拡充に向け、南大和相模原線などに整備するための設計を進めていきます。

これに加え、幹線道路の整備にも着実に取り組んでおり、福田相模原線については、順次北伸させてきた南林間地区の拡幅工事を新年度も行うことで、ゆとりある道路環境が「やまと根岸通り」まで達するとともに、交差点から更に北側へ延長していくため、設計に着手いたします。また、上草柳地区の拡幅事業につきましても、平成32年度までの完了に向けて用地取得を進めるほか、高座渋谷駅付近から藤沢市境への南伸を目指す福田地区の整備に関しては、本市の市道として最長となる約200mの高架方式による工事を具現化するため、都市計画決定の変更作業に入るなど、前進を図ってまいります。

たな発見や感動をもたらす、豊かな心の醸成に欠かすことのできない要素であり、中でも文化創造拠点シリウスは、これらの分野において、市民の皆様の活動を支える代表的な施設となっております。開館から2年強ではありますが、来週中に累計の来館者数が700万人に達する見込みとなっております。この施設が持つ魅力を多くの方に評価していただいていることと表れと受け止めており、その中心となっているのは、何と言っても図書館でございます。

図書館は情報の宝庫であり、また、読書は人生の財産とも言える知識と知恵を得られるものであることから、これまでも、市民の皆様が本に触れられる様々な機会の充実を図ってまいりました。今年度は、北部に新しく中央林間図書館を開館するとともに、渋谷学習センターの図書室を図書館へと移行いたしました。新年度は、市内3館体制となった図書館全てを、民間事業者のノウハウを活用しながら、より快適で利用しやすい場となるよう運営していくほか、市内全駅への設置が完了している図書返却ポストについて、引き続き、商業施設への整備を進めていくなど、「図書館城下町」としての歩みを進めてまいります。

本市の文化芸術活動は、芸術文化ホール、ギャラリーなどの新たな活動場所の誕生によって、一層、活発になってきており、こうした機運を更に高めていくことが、心豊かで潤いのある市民生活や、まちの活性化にもつながるものと考えて

の設置や下り線側への改札口の新設など、平成34年度の完成に向けた駅改良工事の支援と合わせ、隣接する東林間7号踏切の拡幅工事を実施するほか、東急電鉄によるホームドア設置工事の助成も行い、安心してご利用いただける環境を確保してまいります。また、本市の顔とも言える大和駅前におきましては、中央通りの電線地中化工事の進捗を図ります。景観と快適性を向上させることで、駅周辺の回遊性が高まることも期待しております。

公園は、あらゆる世代の市民の皆様が集う、憩いの場となっております。私は、この公園の特性を最大限に生かすべく、健康遊具や防災用かまどベンチを設置するなど、これまでの固定観念に捕われない空間づくりに、力を注いできたところです。新年度には、大和駅の南に位置するやまと公園について、温かな光が射し込み、バラエティに富んだ遊具によって、多くの市民でにぎわう開放的な公園となるよう、改修に向けた実施設計に着手いたします。完成を迎える平成34年度には、車窓からやまと公園を眺めた人たちが、思わず大和駅を降りてしまう。そのような魅力あふれる市民の居場所が誕生し、シリウスに続く中央のまちのランドマークとなるよう期待しています。また、上草柳の最終処分跡地においては、スケートボードなどが楽しめる広さ約1.5haの大規模公園を新設すべく工事を開始するほか、すっかりお馴染みとなりました、ボール遊びもできる公園につき

おります。新年度には、第3期となる「文化芸術振興基本計画」がスタートします。本計画では、「文化の薫るまち 健康都市やまと」を目指すべき姿としながら、地域固有の文化や歴史の保全、市民による多彩な文化芸術活動を育てることなどを掲げております。この新しい計画のもと、文化芸術によって市民、まちが輝けるよう、取り組みを進めてまいります。

現在、市民の学びの場となっております、市民大学の学びの場となっております。市民大学の学びの場として新たなスタートを切ります。この取り組みは、「市民でつくる健康学部」、「人の健康学部」、「まちと社会の健康学部」の3つの学部のもとで、これまで以上に魅力的な学びの場を提供することを目指すものでございます。中でも、シリウスの健康テラスを会場とする、市民でつくる健康学部は取り

